

評価項目	評価	取組状況・成果・課題	改善策	学校関係者評価等でいただいた意見等
各学校での目標（重点は○数字）・具体策				
I 特色ある学校づくりのための学校運営				
1 規範意識の向上とあいさつの習慣化	A	○全体的にあいさつはよくできるようになってきているが、まだ個人差が大きい。声の大きさや返事など、指導を継続する。	・教師側が高い意識をもち、粘り強く声を掛けながら褒めて伸ばすようにするとともに、保護者や地域との連携を図って指導を充実させる。	・あいさつはコミュニケーションの基本なので、引き続き指導の充実をお願いしたい。家庭生活においての中でも、家庭・地域と連携し積極的に挨拶をするようになるとうい。
2 学習に働きかける環境づくりの推進	A	○タブレットによる学習は、児童の意欲を高めている。情報主任を中心に、研修等の計画をし、タブレットPC等ICT機器の活用を進めてきた。 ○授業を展開するにあたり、機器やソフト等の整備はまだ不十分である。	・段階を踏んだ目標を設定し、学習に有効な活用法を引き続き研究していく。教科ごとの実践例を職員で共有する。 ・計画的に予算を要望し、ICT環境の充実を図る。	・タブレットPCは子供の学習意欲につながるので有効活用してほしい。周辺機器については統一的な環境で学習できるよう整備に期待する。各家庭でも使用の決まりを守り、利用させたい。
II 確かな学力の向上を図る学習指導				
1 基礎的基本的な内容の定着	A	○自主学習については、達成賞や学校長からの表彰、ご褒美景品等で全校生の意欲が高まった。頑張りが目に見える形になり、自分から取り組める児童が増えた。 ○ノートやタブレットPCを利用し、ペアやグループで考えを伝えたり、聞いたりする活動を取り入れた。	・引き続き現在の取組を継続する。 MIM（読みや文字理解）を週2回日課に位置付け、言語理解を図る。 ・メモ力、聞いて書くこと等の取組を進める。 ・給食時の放送（お話CD等）を利用し、言語力を高める。	・自主学習の取組は励みになっているようで、頑張りの輪が広がっていくとうい。
2 思考力・表現力の育成	B	○自分の考えが深まっている実感に伴う話し合い活動の充実に向け、具体的な手立てが必要だった。	・思考を深める話し合い活動についてさらに研修を進める。	・タブレットPC学習のメリットは理解しているが、「書く」力が落ちてしまうのではと心配がある。メモ力、聞いて書く力の育成は必要である。言葉の力を養ってほしい。
III 自己指導能力を高める児童・生徒指導				
1 望ましい人間関係の醸成	A	○コロナ禍の状況で、異学年での交流に制限があった時期はあったが、清掃の縦割り班で清掃活動ができているのはよい。 ○トラブルになる場合、語彙力不足によることが多い。		・縦割り班での活動では、下級生を思いやったり、上級生を見て学んだりすることができる。
2 豊かな心の醸成	A	○人権習慣や福祉の学習等で、いろいろな立場の人がいることに気付かせる学習を進めた。	・プラス言葉の指導と実践を行う。 ・自分の感情を適切な言葉で表すことができるよう、語彙を増やす指導を図る。	・「頑張れ」の励ましも必要だが、「大丈夫」と寄り添ってくれる存在や場所も必要。心豊かに育つことを願う。

Ⅳ 健康・安全、体力の向上					
1 めあてをもった体力づくりの充実	A	○コロナの影響で、思うように実施できない運動もあったが、運動量の確保を目指し、指導した。 ○カードを工夫することでより難しい技に挑戦しようとする意欲を高めることができた。	・授業開始時に、準備運動として走力を強化する内容や、体力テストにつながる運動、音楽を取り入れた準備運動等を行う。 ・教科体育の内容を工夫し、児童が楽しみながら運動量を確保できるようにする。  ・多様な状況を想定しながら児童が主体的に判断する場面の展開を図り、危機回避能力を高める。	・タグラグビー等、児童が楽しみながら体力向上につながる授業は素晴らしいと思う。 ・コロナ禍のため、マスクを外して思い切り走る機会が減っているため、体力低下が心配される。 ・命の指導に関して、現実とゲームの世界との違いについて理解させたい。人の死や限界についても知ってほしい。 ・保護者や地域と連携し、指導や訓練の実施をしてはどうか。	
2 健康教育の推進	B	○コロナの関係で栄養教諭と連携した食に関する指導ができなかった。			
3 命を大切にする子の育成	B	○火災、地震、不審者、竜巻等の避難訓練を実施した。 ○けがに繋がらない遊び方等、指導を行った。			
Ⅴ 家庭・地域との連携					
1 開かれた学校づくり	A	○学校だよりやHP等で頻繁に様子を保護者に発信できた。保護者アンケートの結果においても、A評価が多かった。	・引き続き工夫しながら家庭との連携を深める。  ・コミュニティ・スクールの体制作りを進め、外部人材や外部教材活用を進める。	・HPで普段の様子が見られ、子供とのコミュニケーションが取りやすいと思う。 ・連絡帳は電話よりやり取りがしやすい。 ・オンラインで授業参観は画質や音響等で課題もあるが、見られよかった。オンラインは今後コロナ禍以外でも活用できる。 ・コロナ禍の中ではなかなか難しいが、コミュニティ・スクールでの地域との繋がりや連携に期待したい。これから、学校と地域との交流を進め、地域の人がもつ経験や知識を伝承していきたい。	
2 家庭との連携	A	○連絡帳や電話等で家庭との連携が図れた。 ○コロナ禍ではあったが、分散での授業参観、オンラインでの参観等行った。			
3 地域・関係機関との連携	B	○コロナ禍で外部から学校に来ていただく機会が少なかった。スクールカウンセラー、子育て支援課等は密な連携ができた。			